

長野県支部

地域資源を活かした地域産業活性化

第1章 地域産業活性化を図る基本的視点と枠組み

地域産業活性化のためには、ニーズを把握しておくことが必要である。ライフスタイルの動向、コミュニティからパーソナル・ネットワークへの変容、スローライフ、ロハスについての研究。地域の強みを活かした産業のあり方の一つとして、コミュニティ・ビジネスについての研究と、地域間連携として農業と商店街、複合林業と複合農業によるクラインガルデン、グリーンツーリズム、地域内資源循環型複合コミュニティ・ビジネス、学民によるコミュニティ・ビジネスなどを提案。課題、方向、枠組みなどを研究、提案。

第2章 地域資源を活かした都市との交流活動の特定調査

長野県麻績村、生坂村、筑北村からなる「曼陀羅の里」地域の地域振興策として平成18年夏に行われた千葉市教育委員会の「長野県農山村留学事業」および当地域主催による「曼陀羅の里モニターツアー」の内容紹介と、アンケート結果の分析による評価とニーズからのパターン分類、戦略的課題と方向、実施基盤づくりの発展方向として、事業・経営主体の提言、事業展開の仕組みづくりと高度化、ブランド形成のためのコンテンツについて研究、提案。

第3章 地域資源活用ビジネスの特定調査

長野県佐久市で行われている高齢者専業農家4世帯、8人を商工会議所や市民有志の「佐久の鯉人クラブ」などの支援で立ち上げた佐久鯉復活事業、長野県産材の活用事業として行われている森林組合と工務店の連携によるプロジェクト、商店街の資源を見直し、「手造り、手仕事、技の街」として元気な商店街となっている佐久市岩村田本町商店街振興組合について調査。事業のキッカケから現在までの時系列での展開と、事業を成功に導いた要因、今後の課題などを研究、提案。

第4章 地域産業活性化の要件と展望

長野県の地域環境は、市町村の大合併、少子高齢化等の時代を迎え、大きく変化している。長野県の地域ブランド力は、日経リサーチによると都道府県ランクで第14位。風光明媚な自然環境に恵まれ、平均寿命は長く、住み良い県のランクとしてはトップクラスにある。自然資源、歴史、温泉、善光寺、諏訪御柱、スキー場、食べ物等の地域ブランド資源は豊富。そうした中で、各市町村は産業振興戦略が求められている。地域資源を活用した「ものづくり論」「産業振興論」の視点から「地域ブランドの仕組みづくり」を提言。

第5章 地域ブランド形成の要件と方向

地域ブランドの定義、地域団体商標登録制度について事例を含めて研究。地域ブランド形成要素として、普及型、差別化志向型、高級型の分類による中核的なつくり手の存在、文化・歴史などや地勢・有名な製品、産品、突出した自然や風景、地域づくり活動が生み出したもの、大都市や中核都市が持つイメージの視点から地域イメージの存在および展開要素の視点から研究。地域ブランド形成のための基本理念として、顧客からの信用、信頼の確保、地域特性の本質の追究とつくり手のメッセージ融合、高水準の競争志向を提案。